

公益社団法人日本放射線技術学会 中部部会
アンギオ・放射線防護・医療情報システム 合同研究会開催のご案内

国連科学委員会(UNSCEAR)の2008年報告書によると、放射線被ばく全体の中での医療被ばくが占める割合は世界的に増加傾向にあります。我が国の医療被ばくによる年間平均実効線量は3.87 mSvであり、通常の生活でバックグラウンドとして被ばくする線量(2.4 mSv)と同程度の線量(2.3 mSv)をCT検査から受けています。このため医療被ばく、特にCT検査での患者線量管理は世界的にも関心が高まっており、米国ではDICOM画像のTag情報を利用した線量管理システム(Dose Index Registry: DIR)が実用化されています。我が国でも画像のフィルムレス化が急速に進み、DICOMのTag情報を利用した医療情報システムとの連携がますます重要となってきます。

今回、アンギオ・放射線防護・医療情報システム研究会では、「医療情報システムとの連携による患者被ばく管理」をテーマに合同研究会を開催することになりました。

多数の会員諸氏のご参加をお待ちしております。

- 【日時】 平成24年11月3日(土) 9:00～11:00
【会場】 アクトシティー浜松 コンgressセンター4F 44会議室
〒431-7790 静岡県浜松市中区板屋町111-1
Tel : 053-(451)-1111
【テーマ】 『医療情報システムとの連携による医療被ばく管理』

司会 金沢大学附属病院 飯田 泰治
豊橋市民病院 原瀬 正敏

講演1 (9:00～9:30)

「インターベンションの被ばく管理に対する診療放射線技師の関わり方
ーガイドラインに基づいてー」

浜松医療センター 診療放射線技術科 中村 文俊 先生

講演2 (9:30～10:30)

「コンピュータ支援によるCT実効線量計算システムと
DIR(Dose Index Registry)の現状について」
株式会社リジット 代表取締役社長 山本 修司 先生

総合討論 (10:30～11:00)

お問い合わせ先

浜松医科大学医学部附属病院 竹井 泰孝
E-mail : ytakei@hama-med.ac.jp